

熊本機能病院水野副院長の 記事が掲載されました

熊本日日新聞 夕刊 平成30年(2018年)4月4日 水曜日

心不全の進行段階

ステージA 隠れ心不全 の前段階	<ul style="list-style-type: none"> ●心機能に異常はない(器質的心疾患はない) ●心疾患のリスクが高い ●高血圧、動脈硬化、肥満、糖尿病、メタボリックシンドローム
ステージB 心不全の 初期段階	<ul style="list-style-type: none"> ●心臓の収縮・拡張する力が衰えている(器質的心疾患がある) ●心不全の症状はない、気づいていない ●高血圧で心臓肥大、心筋梗塞
ステージC 心不全の 症状がある	<ul style="list-style-type: none"> ●息切れがする ●むくみ ●疲れやすい
ステージD 治療抵抗性	<ul style="list-style-type: none"> ●治療が難しい ●心不全、入退院を繰り返す

ことばの点滴

148

高齢化に伴い、心不全患者が急増しています。患者は現在100万人。団塊の世代が80代を迎える2030年には130万人に達し、「心不全パンデミック(大流行)」が来るといわれます。しかし完治は難しく、5年生存率は50%と一般的ながんより厳しいことは、あまり知られていません。心不全が専門の水野雄二・熊本機能病院副院長に聞きました。

(高本文明)

水野雄二さんに聞く

熊本機能病院副院長

「心不全は、死因によく挙がりませんが、どのようなものですか。」
「心不全とは、『心臓が悪いために、息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなり、生命を縮める病気』です。日本循環器学会と日本心不全学会が昨年10月末、一般の方向けに分かりやすい定義を新たに作り、発表しました」
「心臓が悪いため」とは。
「心臓がさまざまな原因で血液を全身に送り出すポンプ機能を発揮できなくなることです。原因には、高血圧、心筋症、心筋梗塞、弁膜症、不整脈などがあります」
「発症の初期には、どんな症状が出ますか。」
「心不全の初期には、運動した時の息切れがよく見られます。両足や、特に膝から足首まで、足の甲を指で押さえると、くぼみができるようなむくみが出ます。両足に

心不全パンデミック

高齢化進み患者急増

「心不全は、健康な人の心臓機能がいきなり低下する急性心不全、生活習慣の悪化などでゆっくり進行する慢性心不全があります。進行の程度によって、心機能に異常はない『A』から深刻な状態の『D』までのステージに分類されます」
「自覚症状はありますか。」
「患者の6〜7割は自覚症状がなく、無症状の心不全は『隠れ心不全』と呼ばれます。既に心臓の機能が低下している予備軍で、ス

出るのが特徴です。体に水分がたまりやすくなり、体重が知らず知らず増えていることも多いです」
「次第に悪くなるのですか。」
「発症しても適切な治療によって、いったん症状は改善します。しかし心臓の異常が完全に治ることは少なく、再び悪くなることがあります。過労や塩分・水分の取り過ぎ、風邪、ストレス、薬の飲み忘れなどによって、悪化したり再発したりします。安静にして適切な治療を受けると再び改善します。このように悪化と改善を繰り返しながら進行していきます」
「命に関わる病気です。」
「個人差がありますが、心不全で入院したことのある人は、平均で5年間に約半数の方が亡くなっています」

「心不全は、健康な人の心臓機能がいきなり低下する急性心不全、生活習慣の悪化などでゆっくり進行する慢性心不全があります。進行の程度によって、心機能に異常はない『A』から深刻な状態の『D』までのステージに分類されます」
「がんは治療効果が上がって、予防もできて、対処できる時代が来ています。一方で、心不全は予後が悪く、根本治療はなく、超高齢化社会を迎えて増え続け、対処も難しいのが現状です。まずは、新たな心不全へのアプローチ方法や自己管理の仕方、早い段階での対処を確立することが重要です」

「心不全が急増しているのは、なぜでしょうか。」
「高齢者が加齢に伴って慢性心不全になっているケースが多く、気づかないうちにじわじわと心臓の機能が低下しているのです」
「心不全には、全身へ血液を送り出す収縮機能の不全と、全身から戻ってきた血液を取り込む拡張機能の不全があります。以前は収縮機能が中心でしたが、高齢化が進み、拡張機能不全が増えています」
「潜在的な患者もきつと多いでしょう。」
「がんは治療効果が上がって、予防もできて、対処できる時代が来ています。一方で、心不全は予後が悪く、根本治療はなく、超高齢化社会を迎えて増え続け、対処も難しいのが現状です。まずは、新たな心不全へのアプローチ方法や自己管理の仕方、早い段階での対処を確立することが重要です」



◇みずの・ゆうじ 人吉市出身、熊本大医学部卒。専門は、心不全、高血圧、冠動脈カテーテル治療など。日本高血圧学会指導医、日本循環器学会専門医、日本心血管内分科学会評議員。54歳。